

○「別紙」の訂正箇所

1 「情報アクセシビリティ好事例 2023」一覧 (P3)

3 各製品の概要・審査結果 (P143-148)

訂正内容	説明
1 「情報アクセシビリティ好事例 2023」一覧 ④(企業名) Uni-Voice 事業企画 (製品名) Uni-Voice Blind (製品概要) 視覚障がい者向け音声コード読み取り用スマートフォンアプリ	1 「情報アクセシビリティ好事例 2023」一覧に 24 製品目を追加。
3 各製品の概要・審査結果 ④Uni-Voice 事業企画(株) Uni-Voice Blind	3 各製品の概要・審査結果に24製品目の情報を追加。

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

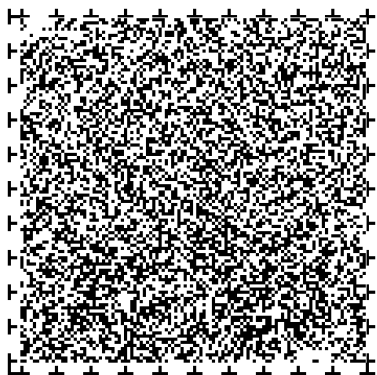
企業名	Uni-Voice事業企画株式会社
機器・サービス名	Uni-Voice Blind
問合せ先	info/atmark/uni-voice.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	視覚障がい者向け音声コード読み取り用スマートフォンアプリ(無料)
機器・サービスの 特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 印刷物や観光地の解説サインに印刷されている音声コードUni-Voiceを読み取ることで、内容をテキストと音声の両方で確認することができます。点字が使用できない約9割の視覚障がい者でも晴眼者と同じように文字情報を取得することができます。 ● ルート案内用の音声コード(NAVIコード)を読み取ることで、インジケータと音声、振動で目的地まで誘導します。地図が読めない視覚障がい者の方でも目的地に辿り着くことができます。 ● 音声コードの読み取り機能の他にも、「耳で聴くWebサイト」「耳で聴くハザードマップ」など、視覚障がい者の暮らしをサポートする機能を備えています。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スクリーンリーダーに完全に準拠しているため、視覚障がい者だけでなく、点字ディスプレイを介して盲ろう者も利用できます。 ● 色のコントラストに配慮し、大きくて見やすいボタンを採用。テキストも拡大することができるため、弱視の方だけでなく、小さい文字が読みづらい高齢者にも利用しやすくなっています。 ● アプリ内コンテンツの耳で聴くWebポータルサイトでは内容を音声で聴くことができます。 (https://site.uni-voice.biz/portal/reading-hp) コンテンツの構成も単純であるため、通常のWebサイトが扱いづらい視覚障がい者でも容易にニュースや自治体の新着情報を取得することができます。

Uni-Voice Blindの利用方法

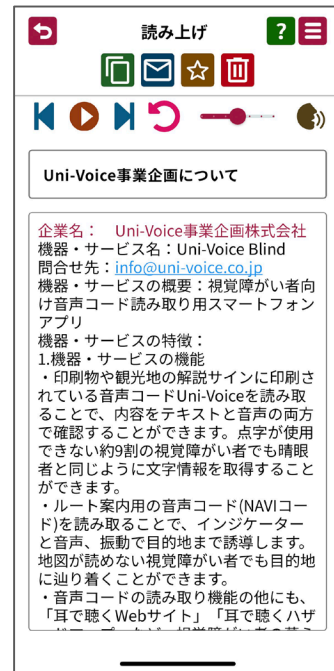


- ①印刷物の右下に付いている半円の切り欠きを触って位置を確認し、②スキャンが完了すると、画面に文字情報音声コードをアプリでスキャンします。

音声コードUni-Voiceについて



- ◆ コード内に約 800 文字記録可能
- ◆ Uni-Voice Blindで読み取ると、コードに含まれた文字情報を表示し、音声で読み上げ
- ◆ コードそのものに文字情報が記録可能なため、オフライン環境でも利用可能
- ◆ 印刷物に音声コードを付けることで、視覚に障害ある人でも”自分で情報を得る”ことが可能に



実際のアプリでの画面表示

アプリの利用は無料です。ぜひお試しください。





②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind

当事者ニーズを踏まえた開発

「視覚障がい者にとって、より使いやすい音声コード読み取りアプリ」として Uni-Voice Blindは開発されました。開発するからには、「視覚障がい者が使えること」が必須条件です。そのため企画・設計・試作品のテスト段階においては視覚障がい当事者の方々にも携わっていただき、その中で出た意見を取り入れながら開発を行ってまいりました。その結果、全盲、弱視を問わず視覚障がい者が使いやすいアプリとなりました。全盲の方には欠かせないスクリーンリーダーに完全に準拠し、弱視の方に配慮した大きくてコントラストがはっきりしたボタンを採用。また、両者に共通して必要な、単純なコンテンツ構成となっております。

企業としての取組

情報アクセシビリティに取り組むための対応として、弊社では日頃より視覚障がい当事者の方々からの声をもとに製品やサービスの開発を行っております。この”声”というのは、もちろん日常生活において不便と感じていることへの悩みの声です。その声から、弊社では音声コード読み取り用アプリをはじめとして、現在では音声読上げ形式のWebサイト「耳で聴くWebサイト」や、地図面も音声で聞くことができる「耳で聴くハザードマップ」の開発を行ってまいりました。今後もすべての視覚障がい者が「読める」社会を目指し、新しい価値を創造してまいります。



②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 視覚障害者は、音声コードUni-Voiceを通じて多種の印刷物や観光情報・案内ルート、ハザードマップ等の情報を音声で容易に取得できる。これにより、視覚障害者のアクセスが困難だった印刷物(郵便物、公共料金の請求書、保険加入源泉徴収票等)の文字情報を音声情報として取得することが可能。
- ・ ハザードマップは通常地図で配布されるが、本アプリケーションでは音声コードを用いることで音声とテキストで確認できる。これにより、視覚障害者や高齢者でも情報を得やすくなる。
- ・ 日常的に利用するアプリケーション(天気等の確認)に災害時対処の案内機能が付随しており、利用者は災害時にも日常的に利用するアプリケーションで状況を確認できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 全盲のユーザーの利用を前提としており、スマートフォンのスクリーンリーダーの読み上げに完全に対応し、1文字ずつの確認も可能である。アイコンは大きく、3×4の画一的な配置により探しやすい。
- ・ テキストの拡大表示も可能であるため、聴覚に障害のある盲ろう者でも活用できる可能性がある。
- ・ 手話情報が記録されている場合、手話設定をオンにすると手話動画が再生される。これは、文章が苦手なろうベースの盲ろう者にとって有用な機能である。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 音声コードの普及が求められるため、行政等との更なる協力を期待したい。インフラ側へのNAVIコード、SPOTコードの付与拡充を期待したい。
- ・ コード作成アプリケーションは、地方公共団体に無償、法人に有償で提供されている。個人でも利用できると助かる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 弱視や色覚多様性の人にとって、見易さに関する機能があると利用者の幅が広がる可能性がある。読み上げ機能も有効であるが、見易さを調整できる機能を期待したい。
- ・ 盲ろう者のiPad利用が増えており、アプリケーション内で文字の拡大設定ができること、画面内で改行されることを期待したい。
- ・ 盲ろう者にとっては、音声コードの読み取りタイミングが分かりにくいいため、振動でお知らせする機能を期待したい。

②④ Uni-Voice事業企画(株) Uni-Voice Blind (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 視覚障害者からのフィードバックが積極的に取り入れられており、企画・設計・試作品のテストにおける全ての段階において、視覚障害者が関与している。
- 日本視覚障がい情報普及支援協会とのパートナーシップを通じて、当事者のニーズに基づいた開発が行われている。
- 視覚障害者との対話を通じて日常生活の悩みを聞き取り、開発品に反映させている。
- 全盲者だけでなく、弱視者(ロービジョン)の意見も取り入れていることがわかる。このようなやり方を標準として、他の製品においても取り組んでもらいたい。サポートについても丁寧に対応されていることがわかる。

4. 企業としての取組について、優れている点

- すべての視覚障害者が「読める」社会を目指し、視覚障害者からの声を基に製品やサービスを開発している。
- 企業ビジョンとして、すべての人が情報を共有できるユニバーサルデザイン社会や共生社会の実現を目指している。
- 社会的ニーズをくみ取り、ハザードマップなどの災害情報の提供について積極的にサービスに取り込んでいる。
- 音声コードを核に製品開発を進めており、企業としての出発点から視覚障害者の利用を意識している。
- 視覚障害者の情報保障を、文章の音声化だけでなく、ハザードマップの音声化や道案内の音声と振動による誘導など、多様な形で展開されている。